



クレアパリ事務所による日仏交流促進の取り組み

(一財)自治体国際化協会パリ事務所

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におけるホストタウンの取り組みを紹介

次長 山城 充 (東京都派遣)

日本の経験を次の開催国フランスへ

2021年10月18日、フランス南部の都市エクサンプロヴァンスにて、フランス都市連合(CUF)の日本分科会が開催されました。CUFとは、1975年に創設された地方分権型国際協力に関わるフランスの地方自治体などの連合組織です。CUFと長年のパートナーであるクレアパリ事務所はこの日本分科会に参加しており、日仏自治体で共有する政策課題についての意見交換などを通じ、日仏間の交流促進に努めています。

オンラインを含め50名ほどの関係者が参加し、ハイブリッド形式で開催された今回の分科会のテーマは、オリンピック・パラリンピック競技大会についてでした。新型コロナウイルス感染症による史上初の延期という困難を乗り越え開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会について、日本のこれまでの経験を、次の2024年大会の開催国であるフランスへ伝えるため、クレアパリ事務所より発表を行いました。



会場となったエクサンプロヴァンス市庁舎

ホストタウンの取組事例を紹介

発表では、開催都市以外の自治体がオリンピック・パラリンピックに関わる1つの方法として、ホストタウンの取り組みを取り上げ、大会本番前のキャンプ地として海外からの選手団を受け入れた2つの事例を紹介しました。



エクサンプロヴァンス市庁舎内での会議の様子

はじめに紹介したのはイギリスのチームを受け入れた横浜市と川崎市の事例です。横浜市・川崎市は、従前からのイギリスとの交流関係が縁となって、市内の競技施設や大学施設などを活用し、水泳・陸上・サッカーなどをはじめとする約600人もの選手団を受け入れました。

次に取り上げたのは、フランスのテコンドーチームを受け入れた静岡市の事例です。日本人オリンピックの仲介もあって、キャンプ地探しに苦労していたテコンドーチームは、カンヌ市と姉妹都市関係にあるなど以前からフランスとのつながりがあった静岡市で事前キャンプを行いました。

どちらのホストタウンでも、コロナ禍の影響により、当初期待されていた選手団と地元住民とが直接触れ合うような交流は実施できませんでした。しかし、交流活動が大きな制約を受けた中でも、関係者の創意工夫により、オンラインでの交流のほか、地元住民から選手団へ応援カードや手作りお菓子のプレゼントが贈られたことなどを紹介しました。

分科会では、ほかにもパリ 2024 組織委員会より「Terre de Jeux (『大会の地』の意)」というホストタウンに似た取り組みに関する説明などがありましたが、次の大会を3年後に控え、オリンピック・パラリンピック競技大会という機会を自治体としてどう活用するのか、フランス自治体関係者のホストタウンに対する関心は非常に高いようでした。フランスで開催される2024年のオリンピック・パラリンピック競技大会では、新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく、参加選手団と地元住民とが自由に国際交流を楽しめることを切に願っています。

フランス地方自治体向けの大規模見本市にて市長や助役に日仏交流を直接 PR

所長補佐 木下 正伸 (岡山県高梁市派遣)

2021年11月16日から18日までの3日間、パリ市のポルト・ドゥ・ヴェルサイユ見本市会場において、第20回フランス地方自治体向けの見本市「Le Salon des Maires et des Collectivités Locales (サロン・デ・メール)」が開催されました。

全仏市長会 (AMF) の総会と併せて毎年11月に開催されるこのイベントは、フランス全土からメール (市長) や助役など、多くの自治体関係者が参加しています。2020年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりオンライン開催となりましたが、2021年は、オンラインでのライブ配信と現地開催のハイブリッド形式により開催されました。見本市の主な出展者は行政に物品やサービスを販売する民間事業者で、国の機関や非営利団体を含む945の事業者や団体が参加し、会場には3日間で4万5,000人以上が訪れました。



訪問者の話に耳を傾けるクリアパリ事務所職員の様子

クリアパリ事務所は、2002年から継続してこの見本市に出展しています。フランス全土の市長や助役に対して、日仏自治体の交流推進や日本の自治体のPRを対面で行うことができるため、クリアパリ事務所にとっては貴重な活動の機会となっています。そのため、ブースを訪れた方が日本らしさを感じられるものとなるようにブースのデザインにもこだわっています。

ブース内では、日本文化に触れていただきながら腰を落ち着けて訪問者とじっくり話ができるようにとの思いから、呈茶によるおもてなしを毎回実施しています。今年は、茶道教室などで行われている新型コロナウイルス感染症対策を参考にしながら、アルコール消毒の徹底や使い捨てゴム手袋の使用、使用済み茶碗の熱湯消毒など、入念な対策を行って実施しました。ワインやチーズなどを振る舞うブースは沢山ありましたが、日本ならではの茶道のデモンストレーションは、特に来場者の注目を集めたようで、多くの人々が立ち止まってお点前の様子を眺めたり写真を撮影したりする様子が見られました。



呈茶デモンストレーションの様子

クリアパリ事務所のブースを訪れたフランスの自治体関係者からは、日本の自治体と姉妹都市連携を希望する声が多く寄せられました。コロナ禍においては、日仏自治体が連携協定を結び、新たな交流関係を構築することは、決して簡単なことではないかもしれませんが、しかし現在のような状況下でも、IT技術などを上手く活用してオンラインで交流を深めている自治体も多数あります。こうした日仏交流の好事例に関する情報を幅広く収集しながら、クリアパリ事務所は、日仏自治体の交流を引き続き支援・促進してまいります。

山梨県甲州市の小学校でフランスについての授業を実施

所長補佐 甘利 祐一（山梨県派遣）

2021年12月、山梨県甲州市の勝沼小学校で5年生26名を対象にフランスの文化や歴史を学ぶための授業が行われました。山梨県甲州市では、姉妹都市関係にあるフランスのボーヌ市へ市内の中学生を派遣し海外文化を体験させるなどの事業を行っているところ、その事前準備として、今回フランスについての授業が実施されました。授業には、山梨県庁所属のフランス人国際交流員（CIR）と、クレアパリ派遣の山梨県庁職員である筆者も教師として参加しました。

フランス絵画の鑑賞およびフランスに関する授業

勝沼小学校での授業は、三部構成で実施されました。

第1部は、山梨県立美術館でのフランス美術についての授業です。山梨県立美術館は、フランス人画家のジャン＝フランソワ・ミレー（ミレー）の70点もの作品を所蔵しており、世界的にも多くのミレー作品を有している美術館です。生徒たちは実際に美術館を訪問し、ミレーを始めとするフランス人画家の作品の鑑賞などを通して、まずはフランス美術について学びました。

第2部は、パリ市とボーヌ市を中心に、フランスについて幅広く学ぶ内容で、CIRと筆者が協力して授業を行いました。CIRは小学校を実際に訪問し、フランスの小学生の生活や食文化、簡単なフランス語を教えました。また、CIRがパリ市とボーヌ市について説明する際には、オンラインで参加した筆者が、現地で撮影した動画などを使用し、エッフェル塔や凱旋門、ボーヌ市の観光名所オスピス・ド・ボーヌなどを紹介し、生徒たちに海外をより身近に感じてもらえるよう工夫しました。授業後には、日本とフランスとの時差やフランスでの生活などについて多くの質問があり、生徒たちの関心の高さがうかがえました。また、参加したCIRは生徒たちと一緒に給食を食べながら交流を行いました。

フランスへのバーチャル旅行

第1部でフランス美術、第2部でフランスについて学んだ生徒たちへの最後の授業として、第3部ではフランスへのバーチャル旅行が実施されました。生徒ができるだけ実際の旅行に近い感覚を体験できるように、授業の中では、日本航空株式会社に提供していただいた飛行機の動画が流されました。また、飛行機の整備に使用し

たオイルの缶を再利用し、整備士の方々が作製したペン立てなどの記念品が生徒たちに配布されました。

バーチャル飛行機にてフランスへ到着した生徒たちは、パリ近郊のバルビゾン村にあるジャン＝フランソワ・ミレー記念館を訪問しました。この記念館は、当時ミレーが住みながら芸術活動を行った場所です。記念館の館長は、ミレーの代表作である「晩鐘」や「落穂ひろい」が描かれた部屋や、ミレーが使用していたパレット、写真家でもあったミレーが撮影した写真、ミレーのスケッチなどを生徒たちに紹介してくれました。また、館長から、いつかフランスに来て当記念館を訪問してもらいたいとの呼びかけもありました。



ジャン＝フランソワ・ミレー記念館内の様子

次に訪問したのは、バルビゾン村の主な観光スポットです。村の観光局の方に、19世紀に多くの画家が宿泊したホテルで現在は主にバルビゾン派の作品を展示している美術館や、フォンテーヌブローの森などを案内してもらいました。授業では、フォンテーヌブローの森の入口に設置されているミレーとテオドール・ルソーの記念碑を作製した作家の同じデザインの記念碑が、山梨県立美術館にも展示されていることなどが説明されました。

最後にパリ・ジュンク堂書店を訪問し、店長からフランスでの日本書籍の人気などについて話していただきました。特に日本の漫画は人気が高く、フランス語版のワンピース100巻は、予約開始後15分で60冊分の予約が全て埋まり、予約終了後も問い合わせの電話が途絶えなかったなど、日本漫画の高い人気を表すエピソードをご紹介いただきました。バーチャル旅行の終了後には、生徒たちから、実際にフランスへ行ってみたいなどの感想が寄せられました。

今回の授業実施に当たっては、多くの関係者の皆様から多大なご協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。